

## 今月のキーワード解説 大学卒業後についての労働統計

前回は、大学生に関する労働統計を紹介しましたが、では、大学を卒業した後について、統計調査はどのようにフォローしているのでしょうか。それについて、今回ふれたいと思います。

### 1. 厚生労働省「賃金構造基本統計調査」(初任給)

賃金構造基本統計調査において、新規学卒者の初任給額が大学などの学歴別に調査されています。2006年調査では、新規学卒者の初任給は、最近の景気を反映し、前年を上回る結果となりました。精確には、1月号の「注目の統計・指標」をご覧ください。

### 2. 厚生労働省「雇用動向調査」

雇用動向調査によって、入職や離職に関する労働移動についてのデータを得ることができ、大卒(新規学卒者・大学)入職者数が、産業別・都道府県別にわかります。

また、雇用動向調査は、データによっては、年齢階級別に得られるものがあります。図は、20~24歳の新規学卒者のうち、パートタイム労働者である者の割合を経年でみたものです。変動はありますが、パートタイム労働者である者の割合が増加している傾向にあります。大卒に限ってのものではありませんが、関連する指標としてお示しします。

### 3. 日本労働研究機構(現在の独立行政法人労働政策研究・研修機構)「変化する大卒者の初期キャリア」 ー「第2回大学卒業後のキャリア調査」よりー(1999、調査研究報告書No.129)

これは、雇用環境の変化が大卒の職業キャリアに与える影響を把握することを目的とした調査研究です。「大学卒業後の初期キャリア調査」は、大学卒男女について、1992年、1998年の2度にわたって職業キャリアを調べた追跡的調査です。1998年の第2回大学卒業後のキャリア調査結果として、①(大卒男性の初期キャリアの変化)、(1)勤続志向は強いものの将来への不透明感が増大、(2)事務系でのジェネラリスト型の減少、②(大卒女性の初期キャリアの変化)、(3)民間企業就職者で離職傾向が目立って低下、(4)離職の減少の背景に結婚・出産率の低下、③職業能力の開発と教育として、(5)盛んな「自学自習」、今後は教育機関に期待といった実態の把握などが行われました。

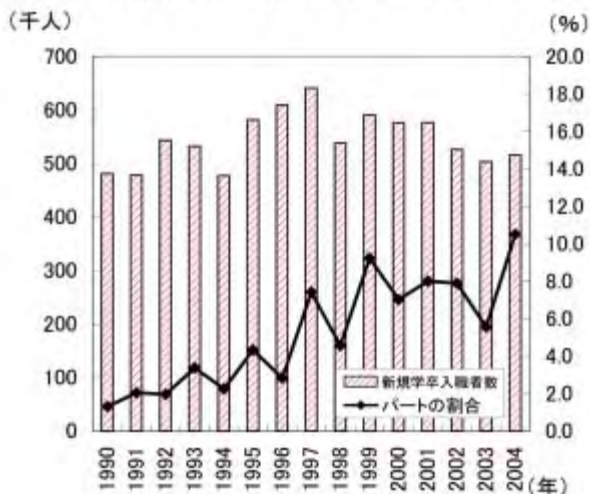
1992年の調査結果は、前回紹介した「大学就職指導と大卒者の初期キャリア(その2)ー35大学卒業者の就職と離転職ー」(1994、調査研究報告書No.56)に、また、その調査結果に分析を加え、まとめたものとして、「大卒者の初期キャリア形成ー「大卒就職研究会」報告ー」(1995、調査研究報告書No.64)があります。大卒キャリアに関するほかの調査研究としては、「大卒社員の初期キャリア管理に関する調査研究報告書ー大卒社員の採用・配属・異動・定着ー」(1993、調査研究報告書No.44)があります。

(お詫びと訂正)

前回1月号において、「大学就職指導と大卒者の初期キャリア(その2)ー35大学卒業者の就職と離転職ー」を(1992、調査研究報告書No.33)としていますが、正しくは、(1994、調査研究報告書No.56)です。お詫びして、訂正します。

(情報解析課長 秋山恵一)

図 20~24歳新規学卒入職者数とパートタイムの占める割合



(注1)厚生労働省「雇用動向調査」より作成  
(注2)20~24歳の新規学卒入職者数と、そのうちパートタイムである者の割合